

# 商学論集「記念号に寄せて」

商学部長 今 村 寛 治

坂本正先生は、1970年に岡山大学法文学部経済学科を卒業、同学部で1年間副手をつとめられた後、九州大学大学院経済学研究科に進学されました。

先生が本学(当時は熊本商科大学)商学部に金融論担当の専任講師として赴任されたのは、1978年4月です。その後、81年に助教授、86年には教授に昇格されました。また88年には、大学院商学研究科教授として証券経済論特殊研究を担当されることになり、大学院教育にもたずさわっていただきました。

また、研究者としても多くの学会で活動されてきましたが、なかでも証券経済学会や日本金融学会では理事をおつとめになるなど活躍が目立ちます。

先生の研究業績は膨大で、ここですべてを紹介するのは不可能です。単著としては、博士(経済学)を九州大学から授与された学位論文『金融革新の源流』があり、これに十数冊の共著、数十本におよぶ学術論文、その他多くの論考が続きます。また、1984年8月から1年間アメリカのコネル大学に留学され、海外でも研鑽を積まれています。

このように、研究者としての先生の実績は論を俟たないのですが、それよりも印象が強いのは、学内行政でのお姿です。

私が本学に赴任した1998年には、先生はすでに商学部長の仕事を終えられ、法人(熊本学園)の理事をつとめておられました。鮮烈に記憶しておりますのは、教員組合との団体交渉の場に担当理事として現れた先生が、書類やメモなど一切見ずに、ほぼ一人で対応されていた光景です。「辣腕」とはこういうことかと、ほとほと感心しました。その後、学長に就任されたのも当然だと思いました。

先生はまた、地元熊本のテレビ番組でコメンテーターとして大変な人気だったそうです(残念ながら福岡在住の私には直接拝見する機会がありませんでした)。昨年3月に先生のご退職祝いを催した時に面白い話をうかがいました。携帯電話もメールもない昔、大学のお仕事で某先生のご自宅を訪問されたところ、その先生から居留守を使われたのですが、奥様やお嬢様が坂本先生の大ファンで、「主人は奥におります、どうぞどうぞ」と、簡単に面会できたというのです。

このたび、先生には教授ご退職後もシニア客員教授として本学にお残りいただき、引き続き教育にあたっていただくことができました。ご担当の「銀行論」ではこれまで培われた人脈で、金融界のトップ経営者をゲスト講師として次々に招かれ、学生たちに大きな刺激を与えていただいております。

商学部の教授会で先生の訾訾に接することが叶わないのは大変残念ですが、これからもお元気で、私どもをお導きくださいますように、お願いいたします。